



情報処理教育センターから情報科学センターへ

加藤 清史¹

私が磯先生の後を受けて情報処理教育センターのセンター長をお引き受けしたのは昭和59年のことでした。

当時、日本全国の国立大学には情報処理教育センターの連絡会ができていて、私も何回かその会合に出席させていただきました。一方、本学では、情報工学部設置の手續きが進められ、私も創設準備室の一員としてお手伝いをしておりました。この中で、文部省からコンピュータサービスの一元化を求められ、情報処理教育センター本来の機能である教育のためのコンピュータ支援に加えて研究でのコンピュータ支援を目指した新しい形態のコンピュータセンターとして、情報科学センターが構想され、文部省の同意を得て、発足することになりました。

新しいといったのは、当時まで、この2つの機能を併せ持ったセンターはなく、その効果を疑問視する意見も多かったのです。情報工学部が設置され、同時に情報科学センターが発足し、初代センター長には情報工学部創設準備室のメンバーでもあった有田五次郎先生がなされました。情報処理教育センターのスタッフは引き継がれ、助教授、助手の定員が増えました。情報工学部の創設により、本学は他に類例のない工学系のみで2学部からなる大学として全国的に、いや全世界から注目されているわけですが、両学部にもまたがる組織として情報科学センターの存在は大きなものがありました。社会の情報化がますます進展する中、また、九州工業大学にもこれに関連して種々の新組織ができていく中、情報科学センターに期待される役割も変化しつつあるでしょうが、情報処理教育センター以来25年の歴史をふまえ、期待に応じてさらなる発展を遂げられるものと確信しております。

¹九州工業大学名誉教授